

研究主題

9年間の学びの連続性を重視した小中一貫教育の研究Ⅳ — 「学校4・3・2制」における学習指導の工夫 —



成果の究明

ぐんぐん学力向上部 (学力向上推進)

- 3校合同授業研究会の実施（年3回）
 - ・言語活動の充実を視点とした授業研究
 - ・「指導案拡大シート」によるワークショップ型研修
- 学び合う授業づくり
 - ・グループ学習の推進・充実
 - ・ユニバーサルデザインを意識した授業の取組
 - ・「見通し」と「振り返り」・まとめの重視
 - ・板書の工夫とノート指導
- 家庭学習の充実
 - ・「家庭学習の手引き」の活用（3校共通の内容項目）
 - ・「かば桜学園学習チェックシート」の見直しと活用
 - ・「たしかめ問題」の見直しと実施（国語・算数・数学・理科・社会）とファイリング

～かば桜学園が目指す児童生徒像～

- ・自分の考えを持てる児童生徒
- ・自分の考えを表現（相手に伝えることが）できる児童生徒
- ・互いのよさを認め合い、よりよい考え方をを見つける児童生徒

さわやか生徒指導部 (豊かな心の育成)

- 道徳教育における共通実践
 - ・自己有用感（自尊感情）を育む
 - ・「ねらい」を明確にした道徳の授業展開
 - ・道徳ノートの活用と充実 → 「振り返り」を重視
 - ・少人数グループでの意見交換
- 話し合い活動の充実（学級活動）
 - ・互いの考え、意見を尊重し合う。（「自分もよくみんなもよい」）
 - 自発的、自治的な活動を高める
 - 学級活動（1）〔集団決定〕
 - 「話し合いマニュアル」の一般化
 - 小中9年間を見通した人間関係づくりの技能の向上を図る
- 授業規律の小中共通化

のびのび交流体力部 (児童生徒・家庭・地域連携)

- 広報活動の充実
 - ・児童生徒対象のアンケート実施
 - ・家庭へ伝えたいアンケート項目の精選
 - ・目指す児童生徒像に関連したアンケート項目の分析
 - ・各校ホームページQRコードを保護者だよりに添付
 - ・交流後の感想カードの文章表現の指導
- 各運動技能を支える体力向上
 - ・朝マラソン等、3校共通の体力課題を取り上げた補強運動の実施
- ジョイントスクールの内容検討

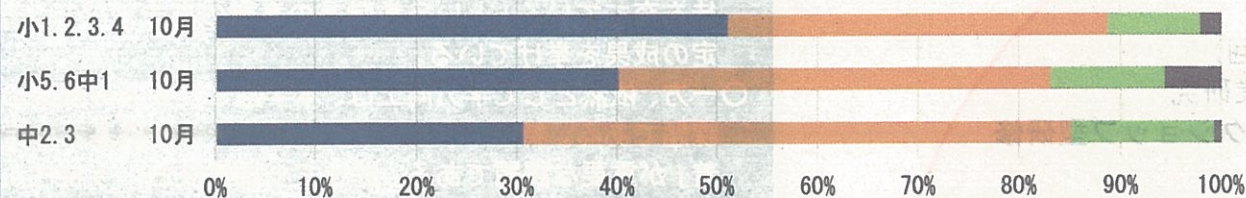


主題設定の理由

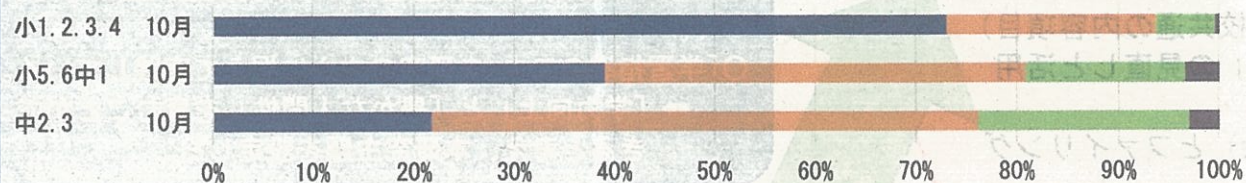
- これまで6年間の小中一貫教育に関する研究実践により、「中1ギャップの軽減」や「9年間を通して児童生徒を育てていく」という教職員の意識の高まりなど、一定の成果を挙げている。
- 一方、依然として学力向上は、本学園3校共通の喫緊の課題である。特に「学ぶ意欲の向上」と「基礎基本の定着」が重要な課題である。併せて小規模校という特性から「豊かな人間性」を育むことも重要な課題の一つである。
- これまでの実践の成果と課題を踏まえ、各取組の本来のねらいや目的を確認・整理して本研究実践に生かしていく。
- 「学習指導の工夫」を研究の中心に据えて実践していく。
 - 「学力向上」と「豊かな人間性」を育むことができると考え、本研究主題を設定した。

児童生徒の意識調査結果

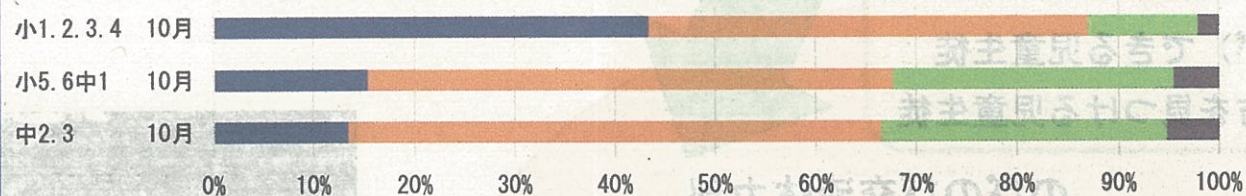
自分の考えをノートにわかりやすく書いていますか。



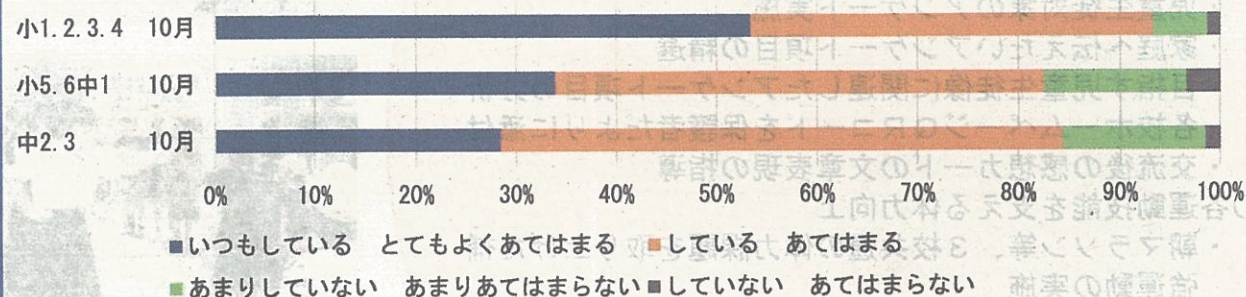
振り返りカードやノートに課題を意識した振り返りを書いていますか。



自分の考えをわかりやすく話せますか。



話し合い活動に進んで参加し、友達の意見をもとに新しい考えに気づいたり、自分の考えを深めたりすることができていますか。



考察

- 「振り返り」を含め、「書く」活動を授業の中で意図的に取り入れているので、自分の考えをわかりやすくノートに書ける児童生徒が8割以上になっていると考えられる。
- 4・3・2の「3」の部分から学習内容がさらに難しくなることで、「課題を意識した『振り返り』ができていない」と感じる児童生徒が増えていると考えられる。
- クラス全体の前で自分の考えを発表することに苦手意識をもっている児童生徒が多い。しかし、少人数グループの学習であれば進んで自分の考えを発表し、新しい考えに気づくことができている。ただし「自分の考えを深める」までには至っていないと考えられる。

研究の成果と今後の課題

(1) 成果

- ・平成30年度埼玉県学力・学習状況調査の算数・数学において、多くの学年で「学力の伸び」や「学力を伸ばした児童生徒の割合」が埼玉県のポイントを上回った。
- ・「見通し」と「振り返り」のある授業やユニバーサルデザインを意識した板書の工夫などに取り組んだことで、児童生徒が「何を学ぶか」「どのように学ぶか」ということを意識して学習することができ、ノートにも自分の考えをまとめることができるようになった。
- ・「かば桜学園チェックシート」と「たしかめ問題」の答えを一体化するなど、取り組み方を見直したことで、学習の基礎基本の定着や保護者との連携を深めることができた。
- ・道徳の時間の話し合い活動では、少人数グループでの意見交換を積極的に取り入れたことで、自分の考えを伝えようとする児童生徒の姿が多く見られるようになった。
- ・道徳の時間の「振り返り」において道徳ノートを活用したことで、児童生徒は自分の生活や生き方と関連させて考えるなど、より深く考えようとする態度が育ちつつある。
- ・交流行事後の感想カードの書き方を指導したことで、自分の思いを具体的に表現できる児童生徒が多くなってきた。
- ・今後の取組や指導に生かすために児童生徒アンケート4項目（目指す児童生徒像に関連した項目）について分析できた。

(2) 今後の課題と次年度に向けての改善点

- ・グループ学習では、「話型」を活用するなど指導の工夫改善をしてきたが、児童生徒の話し合いがさらに深まるように学年ごとの話し合いの視点を設定・提示するなどの工夫をしていく。
- ・家庭学習の定着を目指して、「家庭学習の手引き」を4月に配布するだけでなく、定期的に活用することで、家庭へ学習の取組に関する働きかけを工夫していく。
- ・各種調査結果からも、自分に自信がない児童生徒が多く、自己有用感が低い傾向にある。環境要因などの分析を進め、家庭との連携も図りながら、各取組の見直しと工夫改善を図っていく。
- ・児童生徒アンケートを引き続き実施し、各種調査の質問紙結果やHyper-QU結果と併せて分析することで取組や指導法の改善に生かしていく。

御指導いただいた先生方

埼玉大学教育学部自然科学講座（算数・数学分野）准教授	松崎 昭雄 先生
埼玉県立総合教育センター主任指導主事	野口 高志 先生
前埼玉県教育局南部教育事務所いじめ・非行防止支援員	中村 敏男 先生
戸田市立笹目中学校校長	二瓶 亮 先生
戸田市立新曽中学校教頭	佐藤 貴広 先生
北本市立中丸小学校校長	茂木 潤一 先生
北本市立宮内中学校校長	加藤 秀樹 先生